

## 非小細胞肺癌におけるカルボプラチン+アルブミン懸濁型パクリタキセルによる同時化学放射線療法の有効性と安全性に関する後ろ向き観察研究

### 研究へのご協力をお願い

当院では、最新の(最善の)医療を患者さんに提供するとともに、より良い治療法や診断法などを開発するための臨床研究を行っています。患者さんに参加していただいて、治療方法や診断方法が有効であるか、あるいは安全であるかを調べることを臨床研究といいます。

### 研究の背景

切除不能な局所進行非小細胞肺癌に対して、プラチナ製剤併用化学療法と胸部放射線同時療法に、1年間の Durvalumab 維持療法を追加することが標準治療とされています。プラチナ製剤併用化学療法として用いられる薬剤は幾つかあり、カルボプラチンとパクリタキセルの併用療法もその一つです。

従来のパクリタキセルは溶剤の成分に対する過敏反応が稀ならず発生する問題がありましたが、近年ではアルブミン懸濁型パクリタキセルが非小細胞肺癌の治療にも用いられるようになりました。しかしながら、カルボプラチンとアルブミン懸濁型パクリタキセルによる化学療法と胸部放射線同時療法に関する報告は限られており、胸部放射線治療併用時における同レジメンの指摘投与方法は明確ではありません。

そこで本研究では、切除不能な局所進行非小細胞肺癌に対するカルボプラチンとアルブミン懸濁型パクリタキセルによる化学療法と胸部放射線同時療法の有効性と安全性を調査します。

### 本研究について

この研究は、2016年10月から2023年12月までにカルボプラチンとアルブミン懸濁型パクリタキセルによる化学療法と胸部放射線同時療法を受けた患者さんを対象とします。対象となる患者さんの臨床所見、検査データを収集し、このレジメンの有効性と安全性、およびこれらに関係する因子を調査します。過去のデータを収集するため、本研究に参加することで新たに治療・検査が追加されることはありません。

この研究で得られた情報により、切除不能な局所進行非小細胞肺癌に対するカルボプラチンとアルブミン懸濁型パクリタキセルによる化学療法と胸部放射線同時療法の有効性、安全性に関する知見が得られることが期待できます。

### 研究の参加はあなたの自由意志を尊重します

「ご自身のデータを使用されたくない」と思われたときには、あなたのデータを除外しますので以下のお問い合わせ先までご連絡ください。

### プライバシーの保護について

この研究で得られた情報は、医学雑誌などで公表されることがありますが、お名前や個人的な情報は一切わからないようにいたします。また研究中のデータに関しても、外部に漏れないように厳重に管理いたします。

### お問い合わせ先について

この研究についてわからないことや、聞きたいこと、またなにかご心配なことがありましたら、いつでも遠慮なく担当医師におたずねください。

また、病気や怪我などで他の治療を受ける時、より詳細な研究の計画、研究の方法についてお知りになりたいときにも、担当医師までご連絡ください。なお、この研究に参加している方の個人情報や、研究の知的財産などには、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

### 【お問い合わせ先】

独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 呼吸器内科  
〒612-8555  
京都府京都市伏見区深草向畑町 1-1  
TEL: 075-641-9161  
研究責任者:呼吸器内科 医師 金井 修